

芸術科（美術Ⅱ）学習指導案

広島県立尾道東高等学校

指導者 佐々木 優

- 1 日時・場所 令和6年11月22日（金） 2時限・美術教室
- 2 学 年 2学年 美術選択者 11名
- 3 題 材 名 商店街のPRポスターのデザイン
- 4 題材について

(1) 題材観

本題材は高等学校学習指導要領芸術（美術Ⅱ）「A表現」(2)「B鑑賞」を受けて設定している。その中でも特に「A表現」(2) デザイン、「B鑑賞」(1) ア（イ）及び〔共通事項〕を受けて設定している。

本題材は、尾道本通り商店街のお店の宣伝ポスターをデザインすることで、デザインの形や色彩などによるコミュニケーションを通して発せられるメッセージなど、デザインと地域社会との関わりを意識し、創造的な表現の構想を練り、構成をもとに視覚的に情報を伝える能力を育成することをねらいとして設定している。

また、条件に写真とキャッチコピーを組み合わせて制作することを設定している。写真はビジュアル制作における重要な構成要素である。イラストや文字だけのビジュアルと違い、写真は現実にあるものを映しているため、情報伝達のスピードが速い。そのため、見る人に素早くイメージを連想させ、共感を促す役割をもっている。本題材のようなPRポスターには、街中を行き交う人々の興味を一瞬で惹きつけることが求められるため、構成要素として写真を用いることを条件とした。また、イラストに比べて、制作途中でのやり直しがききやすい点で、作品のイメージを確かめながら創意工夫をすることが可能である。

本校は、尾道本通り商店街に隣接した学校であり、商店街は生徒の通学路にもなっている。そのようななじみ深い場所のPRポスターを作成することは、生徒自身が生活をする地域を知り、主体的に題材に取り組むことができると考える。

また、ポスターの制作を通して、目的や条件などを基に、人と社会をつなぐポスターの働きについて考え、主題を生成する力や、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、平面における表現の特質、配色の効果、言葉とフォントの組み合わせによる効果の違いにより、個性豊かで創造的な表現を構想する力を育成することができる。

本題材は大阪市阿倍野区「文の里商店街」PRポスターから着想を得ており、商店街の企業をPRするための、写真とキャッチコピーを組み合わせた個性豊かで創造的なポスター制作を行う。

(2) 生徒観

本クラスの生徒は、授業評価アンケートで「質問1 あなたは、この授業で、学ぶことに興味や関心をもっている。」に肯定的な回答をした生徒が100%、「質問2 あなたは、この授業で、自己の将来と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組んでいる。」に肯定的な回答をした生徒が82%、「質問3 あなたは、この授業で、自己の学習活動を振り返ってその後の学びにつなげることができ

ている。」に肯定的な回答をした生徒が82%と美術に対して非常に意欲的である。また、「質問4 あなたが、この授業での学習を通して特に身に付いたと思う力を一つ選び、番号で教えてください。」に対して、③ 創造する力（自分なりの見方や興味・関心に応じて試行錯誤し、課題の解決に向けての独創的な価値を創造することができる力）を選択した生徒が8名、⑥ 主体性・粘り強さ（自らの目標の達成に向けて、自らの取組を客観的に把握しながら粘り強く取り組むことができる力）を選択した生徒が3名であり、生徒は授業を通して、創造する力と主体性が身に付いたと実感している。

本クラスの生徒は1年次にシンボルマークのデザイン、アクリルガッシュによるポスター制作、風景画の制作、手をモチーフにした鉛筆デッサン、2年次1学期にアクリルガッシュによるCDジャケットのデザイン、読書感想画の制作など、アナログ画材による平面作品の制作を豊富に行ってきた。特にアクリルガッシュによるポスター制作においては「何を啓発することを目的としてポスターを制作するのか」「啓発すべき社会問題とはどのようなものか」を事前に学習した上で制作を行ったため、生徒たちはポスター制作をする上での事前調査の重要性を実感し、理解している。しかし、自らキャッチコピーを考え、それを用いたポスター制作の経験は不十分であり、構成する要素に写真を用いたポスター制作は未経験である。風景画の制作の際には、三分割構図や日の丸構図など、主要な構図は一通り学習しており、本題材においてもそれらを復習しながら活用することが期待できる。また、ICT活用の観点では、iPadによる画像検索や画像加工、アイディアスケッチなど、制作の補助として機器を活用してきた。一方で、画像編集アプリでの本格的な作品制作の経験のある生徒は少ない。そのため、アプリの機能についての知識に乏しい生徒がほとんどである。

(3) 指導観

指導に当たっては、導入の段階で画像編集アプリの機能を学びながら、優れたポスターのデザインの要素を分析することで、形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴を学習できるようにする。

デザインの際には、iPadを使い、写真とキャッチコピーを組み合わせることを条件とする。

構図を意識して写真を撮ることは、写真の中で特に目立たせたい要素を際立たせ、作品を通して伝えたいメッセージがより伝わりやすくする効果がある。そのため、1年次に学習した写真の構図について復習をし、表現意図に合う写真を撮影できるようにする。

アイディアを練る段階では、お店のインタビューを行い、お店への理解を得たうえでキャッチコピーや構成を考えていく。キャッチコピーと組み合わせたい写真の構図を考え、必要に応じて企業に写真撮影に伺う。その中でより良いアイディアが浮かべば、適宜取り入れ、より良い表現ができるようにする。

制作はiPad内の画像編集アプリで行う。アプリには画像編集機能が充実しているほか、明朝体やゴシック体、手書き風のものなど多種多様のフォントが収録されており、表現意図に合ったものを選択することができる。制作に努力を要する生徒に関しては、Web上のデザインテンプレートサービスを用いて補助できるようにする。

作品完成後は自身の制作したポスターについて、表現の工夫やその意図をまとめ、プレゼンテーションを行う。生徒に原稿を書かせたのち、発表までに個別に聞き取りを行い、出来上がった作品につ

いて、表現の工夫やその意図が適切な言葉で表現できるようにする。また、作品の目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫について考えることができるように、発表の前にお互いの作品を鑑賞し、鑑賞の中で生じた作品の表現に対する質問や、感想を事前にワークシートに記入させておく。その後、発表の際には発表の内容や態度の相互評価を行わせる。

5 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- ・意図に応じて写真やフォントの特性を生かすとともに、主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。〔「A表現」(2)デザイン イ〕

(2) 「思考力、判断力、表現力」に関する題材の目標

- ・目的や条件などを基に、人と社会をつなぐポスターの働きについて考え、主題を生成し、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。〔「A表現」(2)デザイン ア〕
- ・目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。〔「B鑑賞」(1)ア(イ)〕

(3) 「学びに向かう力、人間性」に関する題材の目標

- ・主体的に目的や条件などを基にした構成や伝達などの機能や効果を考えながらポスター表現の創造的な諸活動に取り組もうとする。
- ・主体的に目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて写真やフォントの特性を生かすとともに、主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</p>	<p>発 目的や条件などを基に、人と社会をつなぐポスターの働きについて考え、主題を生成し、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 主体的に目的や条件などを基にした構成や伝達などの機能や効果を考えながらポスター表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（全8時間）

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は以下の通りである。

● □は授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」を示す。

● □は題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。

● □は、授業の中で評価規準を通して、生徒の学習の実現状況を見取り、生徒の学習の改善や、教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
<p>1. 作品の鑑賞・分析（2時間）</p> <p>●既存のポスター作品を鑑賞し、作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</p> <p>●形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解する。</p> <p>・大阪市阿倍野区「文の里商店街」PRポスターの写真とキャッチコピーとの組み合わせによるユニークさを感じ取り、写真、文字の構成を分析することにより、優れたデザインの要素を考察する。</p> <p>・写真の構図は何が用いられているのか、文字はどのくらいの大きさでどこに配置されているのか、フォントはどのようなものが使われているのか、写真とキャッチコピーの組み合わせがどういった印象を与えるのかなどの視点で分析を行う。</p>	<p style="text-align: center;">知</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">鑑</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p style="text-align: center;">態鑑</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>鑑 鑑態 大阪市阿倍野区「文の里商店街」PRポスターを鑑賞し、作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと、学習に取り組む態度とを見取る。できていない生徒に対して、作者の心情について考えさせるなどの指導をする。 【発言の内容、ワークシート、活動の様子】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>知 鑑賞の学習を通して、形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解しているかを見取る。2～3人1組の班になり、写真の構図（日の丸構図など）やフォント、文字の配置、配色などの要素を整理することで、ポスターのレイアウトについての理解を深められるようにする。【ワークシート、活動の様子】</p> </div> <p>鑑 作品を鑑賞し、目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めているかどうかを評価する。【ワークシート、活動の様子】</p>

2. 発想や構想（2時間）

●主題を生成する。

- ・対象の商店街のお店の人にインタビューを行い、お店についての知識を深める。
- ・インタビューを経て、感じ取ったことや考えたこと、「お店をアピールする」という目的を基に主題を生成する。

●主題を基に構想を練る。

- ・生成した主題を基に、キャッチコピーやそれを効果的に表すフォント、レイアウト、被写体の表情やポーズ、ライティングなどについて考え、ワークシートに整理をしたり、アイディアスケッチを描いたりして創造的な表現の構想を練る。

発



態表



発 態表 対象の商店街のお店の人にインタビューを行い、お店についての知識を深め、インタビューを経て、感じ取ったことや考えたこと、「お店をアピールする」という目的を基に、主体的に主題を生成できているかどうかを見取る。主題を生成できていない生徒には、他の生徒との意見交換をさせ、思考プロセスの見通しをもたせるように指導する。【活動の様子、ワークシート、アイディアスケッチ】

知 主題を基に構想を練る段階で、1. 作品の鑑賞・分析で学習した造形の要素の働きや全体のイメージなどで捉えることが理解できているかを見取る。理解できていない生徒に対して、再度造形的な要素や作品全体のイメージなどで捉えることに着目させるなどして理解が深まるように指導を行う。【ワークシート、アイディアスケッチ】

発 主題を生成し、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、第三次（3. 制作）で再度評価を行う。【ワークシート、アイディアスケッチ】

態表 主体的に発想や構想の活動に取り組み、造形要素の働きや、全体のイメージなどで捉えることを理解しようとし、生成した主題をよりよく表すために創造的に構想を練ろうとする態度を評価する。【活動の様子、ワークシート、アイディアスケッチ】

発



態表



3. 制作 (3時間)

- 発想や構想したことを基に創造的に表す。
- ・アイディアスケッチを基に、お店に写真撮影に行く。この際にもう一度「2. 発想や構想」の段階に戻ることもある。反復しながら制作を行っていく。
- ・意図に応じて写真やフォントの特性を生かすとともに、主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。また、制作の途中に相互鑑賞の活動を行い、他者の作品を見たり表現の意図を説明したりすることにより、表したいものを明確にしていくなどしながら完成させる。

技



技

発



発

態表



態表

技 態表 発想や構想したことなどを基に、意図に応じて写真やフォントの特性を生かすとともに、主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表しているかどうかや、意欲的に主題を追求しているかなどの態度を見取る。実現できていない生徒に対して、主題をもう一度見直させたり、Canvaなどのデザイン補助のサイトを利用して、優れたレイアウトに当てはめさせたりする。【制作途中の作品、活動の様子】

知・技 作品から意図に応じて写真やフォントの特性の生かし方、主題を追求して表しているかなどを見取るとともに、造形要素の働きや、全体のイメージなどで捉えることを理解しているかを併せて見取り、**知**と**技**を**知・技**として一体的に評価する。【作品、ワークシート、アイディアスケッチ】

発 主題の変化や写真とキャッチコピーによる構成の計画などの構想を含めて、発想や構想を再度見取り評価する。【作品】

態表 主体的に制作に取り組み、造形要素の働きや、全体のイメージなどで捉えることを理解しようとし、目的や条件などを基にした構成や伝達などの機能や効果を考えながら創造的に表そうとしている態度を評価する。【活動の様子、作品】

<p>4. 鑑賞（1時間）</p> <p>●生徒作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の作品の工夫した点などを整理し、アピールポイントをプレゼンテーションする。 ・他者の完成した作品のプレゼンテーションを聞くことを通して、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 			<p>鑑 鑑態 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうかと、学習に取り組む態度とを見取る。プレゼンテーションという形を取ることによって、自身の作品の魅力を原稿に書き出し、具体的に考えさせる。また、聞き手側になる際には、プレゼンテーションを評価するという目的をもたせることによって、主体的に他者の発表を聞くことができるようにする。【活動の様子】</p>
<p><授業外：題材の終了後></p>	<p>知・技</p>	<p>鑑</p>	<p>知・技 完成作品や発想や構想、鑑賞のワークシートなどから知・技の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ】</p> <p>鑑 作品から目的や条件との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深められているかを見取り評価する【ワークシート】</p> <p>発 発想や構想の段階におけるワークシート等を完成作品と併せて主題の変化や写真やキャッチコピーによる構成の計画などを再度見取り、必要に応じて修正する。【完成作品、ワークシート、アイデアスケッチ】</p>

8 本時の展開（5／8時間）

(1) 本時の目標 目的や条件などを基に、人と社会をつなぐポスターの働きについて考え、主題を生成し、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。

(2) 準備物

【指導者】 iPad

【学習者】 美術授業用ファイル、筆記用具、iPad

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
1 学習事項への接近 10分	○前時の活動の振り返りを行う。	◇前時にフォントや配色について学んだことを再確認し、表現意図に応じた選択ができるようにする。	
2 学習課題の設定 10分	○本時の目標を確認する。 めあて インタビューの内容をもとに写真とキャッチコピーの組み合わせによって、商店街のお店の魅力を伝えるPRポスターのデザインを考えよう！		
3 学習課題の追究 25分	○ワークシートにインタビューをもとに構想した内容をまとめる。 ・お店の情報に加え、想定するターゲットやポスターのコンセプト、キャッチコピーやフォント、配色、写真の構図などの情報を整理する。 ○まとめた内容を発表する ・前に出て、一人ずつ発表する。 ○アイディアスケッチ・制作を行う。 ・各自の進度に合わせて、ワークシートを用いたアイディアスケッチやアプリを用いた制作を行う。	◆スケジュールの都合でインタビューが行えていないなど、作業を進められない生徒に対しては、「所属する部活動（あるいはクラス、生徒会など）のPRポスター」を作成させる。その中で、アプリの機能を活用できるようにする。 ◇発表を通して情報を整理し、ねらいを明確にしたデザインを構想しやすいようにする。 ◇適宜机間巡視を行い、つまづきを解消できるようにアドバイスや資料の提供をする。 ・写真の色味の調整や、フォントの検討など、アドバイスをする。	

		<p>◆主題をもう一度見直させたり、Canvaなどのデザイン補助のサイトを利用して、優れたレイアウトに当てはめさせたりする。</p>	
<p>4 本時の まとめ と次時 への発 展 5 分</p>	<p>○本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使用し、活動を記録する。 <p>○次時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は各自の進度に合わせて、構想を練ったり、制作をしたりすることを知る。 	<p>◇ロイロノートに提出する毎時の振り返りには、生徒に「制作上のつまずき、困りごと、相談したいところ」を記入させることで、生徒に自身の課題を明確にさせる。また、次時の展開の中でフィードバックすることにより、生徒がより主題に迫れるように支援する。</p>	<p>発 主題を生成し、社会におけるポスターの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。(ワークシート)</p>